



第53回理事会開催

助成対象に190件を決定

去る9月20日(水)、第53回理事会が都内にて開催された。内容は、平成元年度助成対象の審議と決定が主となり、その結果、研究助成、市民活動助成および国際助成など、併せて190件、総額にして約4億2,935万円の助成を決定した。おもな内容は以下の通り。

●研究助成は62件、2億100万円

助成対象となったのは、個人奨励(第I種)研究が26件、試行・準備(第II種)研究が22件、総合(第III種)研究が14件。申請総数が771件であったので、採択率は8.0%と相変わらずの厳しさとなった。研究課題については、『新しい人間社会の探求』を基本テーマに掲げて今年で6年目になるが、昨年度からはその中でも「高度技術社会への対応」と「多文化社会への対応」に関するテーマに重点を置くこととしており、対象となったものも何等かの点でこれら重点課題に関するものが多くなっている。(P.3~5参照)

●市民活動助成は10件、1,780万円

本年度の当助成に関する審議は、昨年度同様、①記録の作成、②記録の出版、③活動交流促進プロジェクトの3つの内容について行われ、①については申請総数32件の中から5件が、②については7件の申請中3件が、そして③については2件がそれぞれ助成の対象となった。(P.6参照)

1988年度研究助成・経過報告会を開催

8月18日(金)および19日(土)の2日間にわたり、昨年度の研究助成につき、第II種研究を中心とした助成研究に関する経過報告会が国際文化会館(東京・六本木)にて行われた。内容は多岐にわたり、いずれも聞きごたえのある報告ばかりであったが、これらのうち、本年度に継続申請を提出している研究に関しては、当報告会は選考の一環ともなっていたため、質疑応答に際しては、白熱した場面も見られるなど、密度の高い報告会となった。

報告する太田素子氏(高知大・教育)▶

おもな内容

▶研究助成の選考を終えて……………	2
▶研究助成対象一覧……………	3~5
▶市民活動助成の選考を終えて・助成対象一覧……………	6
▶国際助成・「隣プロ」等助成対象一覧……………	7~11
▶新刊紹介……………	11~12
▶最近の報告書から、他……………	12

●国際助成は96件、1億2,060万円

東南アジア諸国などにおける各地の固有文化の保存と振興に関する(現地の人々による)研究や事業に重点をおいた本助成では、96件がその対象となった。

なお、この内24件(合計・649万円)については、「インドネシア若手研究者奨励研究助成」の助成対象。

(P.7~10参照)

●「隣人をよく知ろう」プログラムは16件、5,659万円

日本と東南アジアおよび東南アジア相互間の理解促進を狙いとした当プログラムでは、翻訳出版促進のための助成を行っている。今回は、「日本向け」が6件、「東南アジア向け」4件、東南アジア相互間6件が、それぞれ助成の対象となった。

(P.10~11参照)

●東南アジア研究英訳刊行助成は1件、1,396万円

昨年度に引続き、「日本人による東南アジア研究成果の英訳刊行」が助成対象となった。

(P.11参照)

●その他

本年度より新たに設定した計画助成では、5件(合計1,940万円)が対象となった。





研究助成の選考を終えて

研究助成選考委員長 飯島 宗一

6月末以来771件の申請案件を対象に選考を進めてきたが、祖父江孝男副委員長ほか8名の選考委員と6名の専門委員のご協力により、62件の助成対象を選ばせていただいた。私が委員長となって2度目の選考結果をここにお届けすることになる。

結果を要約すれば、採択になったのは個人奨励（第Ⅰ種）研究が26件で4,440万円、試行・準備（第Ⅱ種）研究が22件で5,590万円、総合（第Ⅲ種）研究が14件で1億70万円、合計62件で2億100万円となる。予算を100万円ほど越えたが、全体としての採択率は8.0%と相変わらずの厳しさととなっている。

なお研究課題については、『新しい人間社会の探求』を基本テーマに掲げて今回で6年目になるが、昨年度からはその中でも「高度技術社会への対応」と「多文化社会への対応」に関するテーマに重点を置くこととしており、採択になったものも何らかの点でこれら重点課題に関するものが多くなっている。

◎選考方法について

個人奨励（第Ⅰ種）研究は、まだ見ぬ将来を期待して若手研究者の冒険的な試みに賭けるもので、プロジェクト型の共同研究とは幾分異なった視点での選考が必要になる。そこで昨年度から副委員長と中堅の専門委員で構成する分科会を設け、ここで第一次選考を行い、本委員会ではその結果を検討し承認するという形で選考を進めた。

試行・準備（第Ⅱ種）研究は、今後数年のうちにある程度の規模をもった総合研究に展開することを期待して、その試行や準備研究に助成するもので、テーマの重要性や内容の独創性のみならず、研究の発展性や研究チームの学際性、職際性、国際性を重視した。第一次選考と第

二次選考と2度にわたる審議を経て決定した。

総合研究（第Ⅲ種）はこれまでに第Ⅱ種研究の助成を受けたことのある継続申請を対象にしたもので、申請件数も少ないので第一次選考は省略し、そのかわりこれまでの報告書等の関係資料を丹念に検討して直接第二次選考で論議を尽くし決定した。なお昨年度から、重点課題に関するものすでに相当の準備が整っているものについては新規でも受理することにしたところ、本年度は14件の新規申請が寄せられた。しかし第Ⅱ種研究で真剣な試行錯誤や慎重な検討を経たものに較べると、研究計画の深みや実現性について相対的に見劣りするものが多く、新規で採択になったものは1件に過ぎなかった。

◎採択テーマについて

採択テーマは、何らかの点で重点課題に関係するものが多くなっている。「高度技術社会」に関しては、直接現代の先端的な科学技術の問題を扱ったもの（Ⅰ-228、-338、Ⅱ-088、Ⅲ-016など）以外に、在来技術の再評価（Ⅰ-103、Ⅱ-027、-030など）や科学技術のもたらす環境や社会への影響を明らかにしようするもの（Ⅰ-088、Ⅱ-076、190、Ⅲ-018など）が目立つ。

「多文化社会」に関しては、日本における異文化接触の問題（Ⅰ-022、-059、Ⅱ-091、-266、Ⅲ-019、-046、-058など）や、海外における日本文化のありようや影響を扱ったもの（Ⅰ-027、-318、Ⅱ-110、-356、Ⅲ-035、-067など）が多数を占めるが、特に第Ⅰ種研究では日本と関係のない世界各地の多文化現象に着目したもの（Ⅰ-080、-159、-285など）も目についた。また在来の伝統社会や多民族社会の中に新しい技術や産業が導入された時の問題をあつかったもの（Ⅰ-190、-325、Ⅱ-163、Ⅲ-030など）もいくつかあり、これらは二つの重点課題にまたがるテーマと理解できる。

重点課題以外のテーマとしては、野生動物の保護や自然環境の保全に関するも



▲飯島委員長

の（Ⅰ-033、-077、Ⅱ-220、Ⅲ-042）、社会問題や社会福祉、老人ケアに関したもの（Ⅰ-025、Ⅱ-120、-208など）、斬新な視点で日本の社会や文化を再検討しようとするもの（Ⅰ-008、-107、Ⅲ-012、-039、-041など）が採択されている。

◎選考結果の意味

選考は1つの申請案件について原則として3名の委員で評価し、その結果をもちよって委員会で審議するわけであるが、委員会では今回も長時間にわたる激しい議論が展開された。全員一致で高く評価されたものはごく一部に限られ、採択になったものでも疑問や反対意見が出されたものも多数ある。同時に、ある委員からは強い推薦がありながらも他の委員の評価が得られなかったために採択に至らなかったものも数多い。

各委員はそれぞれの価値観や考え方に基づいて評価し推薦するのであるから、委員の構成が異なっていれば当然選考結果もまた異なったものになっていたであろう。選考自体は極めて厳正・公正に進めるよう努力した積もりであるが、そういう意味で選考結果は委員会自体の個性の表現であるということもご了承ください。

トヨタ財団ではそのような個性が固定化しないようにとの配慮から、選考委員の任期を2年1期として2年毎に約半数を交替する方針としているが、民間の助成財団はこのような個性をむしろ大切に維持すべきなのか、公平を期して無くすように努めるべきなのか、議論のあるところであろう。



1989年度 研究助成対象一覧

個人奨励(第I種) 研究 (26件: 4,440万円)

注 (研究題目末尾の継2(3)は、継続2(3)回目を示す。
(助成金額下の()は、助成期間を示す。無記入は1年間。)

No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
1	18世紀後半日本における実証主義的な新思潮の勃興と、それに伴う江戸洋風画の発生について	季 仲 熙	東京芸術大学美術研究科	190
2	在日インドシナ難民のアイデンティティとエスニシティの研究 — 関東・関西のベトナム人家族の定住適応過程と社会的ネットワークの形成を中心に —	川 上 郁 雄	大阪大学文学研究科	150
3	タイの社会変動と不平等の拡大 — 中間層の出現とその役割を中心に —	鈴 木 規 之	チュラロンコン大学政治学部	170
4	就学前幼児の異文化適応 — 英国在住の日本人就学前幼児の社会化：社会的場面におけるSelf-Regulationを中心に —	佐 藤 淑 子	ロンドン大学比較国際教育学部	170
5	日本企業の海外法環境に対する適応と操作およびその過程にみられる制度・文化発展の契機 — 中日取引紛争の処理に関する実証的研究を中心として —	季 衛 東	京都大学法学研究科	160
6	ケニアの国立公園におけるアフリカゾウと人間の緩衝地帯設置に向けての技術的研究 — 栄養分析を中心として —	中 村 千 秋	女子栄養大学	200
7	在日韓国・朝鮮人の意識と運動：三世の文化運動を中心として	鄭 鎮 星	東京大学社会科学研究所	180
8	慢性病者の安寧な日常性に影響する性的な問題とその問題に対する専門的ケア技術の開発 — 実態調査を基礎として —	黒 田 裕 子	聖路加看護大学看護学研究科	180
9	DNAフィンガープリント法を用いた父子判定法によるゼニガタアザラシの配偶システムの解明	川 島 美 生	京都大学理学研究科	170
10	多民族都市における医療文化の動態と変容過程 — 北部ナイジェリアにおける社会人類学的事例研究 —	近 藤 英 俊	ロンドン大学社会人類学部	200
11	近代化による育児生態の変遷が沖縄県先島諸島において咀嚼器官の初期発達におよぼした影響	坂 下 玲 子	東京大学医学系研究科	180
12	インド亜大陸の在来農法に半乾燥地農業成立の要件と展開の可能性を探る — 土壌学的視点からの在来農法に見る農耕地土壌の表層管理の比較と評価 —	田 中 樹	京都大学農学研究科	160
13	西学(Western Studies)をめぐる中日両国の近世 — 方以智の場合	劉 岸 偉	東京大学総合文化研究科	180
14	バルト3共和国の自立問題に関する研究 — 現代世界における分離と統合の動きに寄せて —	志 摩 園 子	津田塾大学国際関係研究所	190
15	死の場所をめぐる公衆衛生・人類生態学的研究 — 変容する南島文化の現況から —	近 藤 功 行	琉球大学医学研究科	110
16	定期市(週市)をとらえてみたエジプトの社会・経済システムとイスラム的価値観の関連について — 社会人類学的研究 —	奥 野 克 己	東京都立大学社会科学研究科	180
17	日本の大学の現状と実態：日本の科学技術の未来	ホールデン・タッド	東北大学教養部	160
18	熱帯畑作における土地生産力維持機構解明のための耕地生態学的研究 — 東北タイにおける焼き畑と常畑の土壌及び作物体地下部の調査 —	林 幸 博	京都大学農学研究科	180
19	農民の価値態度形成の歴史的・社会的要因に関する実証的基礎研究 — 農薬空中散布問題における対立抗争現象を事例として — (継2)	青 木 辰 司	秋田県立農業短期大学	200
20	肥後石橋の管理運営に関する研究 — 治水か観光か —	大 澤 義 明	熊本大学工学部	170
21	フランスにおける移民集中地区の修復・改善の研究	寺 尾 仁	フランス政府都市・市街地社会的発展省際運営部	120
22	英国在英邦人の精神衛生に関する調査研究 — 海外在留邦人のための精神保健サービスの確立をめざして —	田 村 毅	ロンドン大学家族療法研究所	180



No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
23	英国女子パートタイム就労の研究 — 産業化に伴う女子パートタイム就業の意味を探る —	白波瀬 佐和子	コロンビア大学東アジア研究所	180
24	南アジアの伝統的回教徒国に起っている変化：日本が及ぼしている社会的、文化的、経済的影響 — マルディープ共和国の例 —	フォーブス・アンドリュウ	オックスフォード大学アジア研究センター	150
25	ブラジル北東部(フォルタレザ)における乳幼児の急性呼吸器系疾患に関する医薬品使用状況調査 — 必須医薬品概念は生かされているか —	三 砂 ちづる	琉球大学保健学研究所	190
26	新しい遺伝子技術が社会にもたらす倫理問題について — ヒューマン・ジェネティクスを中心に —	青 野 由 利	毎日新聞社科学部	140

予備的(第II種)研究 [22件; 5,590万円]

27	タイ国における無農薬、無化学肥料生態系稲作に関する国際共同研究	谷 山 鉄 郎 他4名	三重大学生物資源学部	200
28	「上総掘り」についての学際的研究 — 途上国への技術適用をめざして —	諸 岡 青 人 他10名	上総掘り研究会	250
29	中国少数民族の婚姻と人口動態に関する社会学的研究	若 林 敬 子 他4名	厚生省人口問題研究所地域構造研究室	270
30	熱帯及び温帯アジアの水田における農薬による害虫誘導多発性(リサージェンス)の要因比較 (継2)	中 筋 房 夫 他3名	熱帯イネ害虫研究会	100
31	情報処理関連産業従事者の精神健康に関する研究 — 生活リズムと精神健康との関連を中心に —	佐々木 雄 司 他6名	職場の精神衛生問題研究会	290
32	在日アジア系外国人の生活適応と保健医療上のニーズに関する調査研究	山 崎 喜比古 他7名	東京大学医学部	240
33	染織、陶器、漆器を中心とした在米沖縄関係資料の研究調査	アマンガ・スティンチカム 他2名	琉球工芸研究会	300
34	長期ケア老人のケースマネジメント試行とその経済的社会的評価に関する研究	前 田 信 雄 他4名	ケースマネジメント研究会	290
35	南太平洋島嶼国の自立化と非核化の展望に関する予備的研究 — フィジー、ニュー・カレドニア、ペラウ共和国の経済社会構造比較を中心にして —	佐 藤 幸 男 他5名	アジア太平洋マイクロ・ステート研究会	300
36	巨大都市のホームレス問題と福祉援助 — 大都市の多文化性を背景に —	窪 田 暁 子 他2名	保護施設研究会	260
37	人工有機化合物および重金属による大阪湾の汚染とその影響評価に関する環境化学的研究	川 合 真一郎 他3名	大阪湾の汚染に関する研究会	280
38	日本各地における老人の自立的ネットワーキングに関する基礎的研究 (継2)	越 谷 和 子 他4名	毎日新聞世論調査部	250
39	CATVの導入に伴う地域社会の活性化に関する実証的研究	山 本 透 他3名	ニューメディアと地域活性化研究会	280
40	中国・長江産サナメリ(歯鯨目)の有毒金属および人工有機化合物質の体内蓄積に関する研究	周 開 亜 他4名	南京師範大学生物系	180
41	スマトラ沿岸低湿地の生態系と土地利用の変化 — 地域の生態系と住民社会の現状に根ざした新しい地域発展の在り方を目指して —	スピアンディ・サビハム 他5名	ボゴール農科大学農学部	270
42	「アジアからの花嫁」の日本語獲得環境と情報環境に関する実態調査	小 沢 有 作 他3名	「外国人と言語・情報」研究会	270
43	アジアの都市と集落の居住空間形成に関する研究 — 中国内蒙古の都市と住居の伝統と変容 —	太 田 実 他9名	アジア都市・集落研究会	300
44	中国における日中交流の歴史的遺跡に対する考察と研究 — 日中共同研究を通じて —	夏 應 元 他5名	中国社会科学院歴史研究所	280
45	占領下教育関係雑誌の書誌的調査研究 — 米国・メリーランド大学所蔵誌の目次総覧・検閲実態・解題 — (継2)	奥 泉 栄三郎 他5名	シカゴ大学東アジア図書館日本部	120



No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
46	美術史の資料ソース：日本の近・現代美術に関するインフォメーションのバイリンガル・データベース化に関する準備調査	富井 玲子 他1名	Center for International Contemporary Arts	300
47	日本企業の海外進出による現地社会経済への影響と対応 — 英国における地域事例研究 —	R.M.V.コリック 他3名	シェフィールド大学日本研究所	260
48	ベトナム経済の現状と発展戦略	トラン・ヴァン・トウ 他12名	ベトナム経済研究会	300

総合(第三種)研究 [14件; 10,070万円]

49	日本文化の中の漂泊者と漂泊性：その意義や定着社会との関係(継2)	ヤコブ・ラズ 他3名	漂泊と定着研究会	600
50	ラテンアメリカ主要国における対日イメージに関する研究(継2)	グスタボ・アンドラーデ 他22名	上智大学イベロアメリカ研究所	670
51	途上国における生命科学技術の健全な普及と利用のための国際協力の方法に関する研究 — がんの制圧をめざす集学的国際協同研究への適用 — (継2)	中島 泉 他14名	名古屋大学医学部	1,000 (2年)
52	長崎原爆残留プルトニウムの環境中での挙動に関する調査研究 — 地球規模汚染のトレーサーとしての利用 — (継2)	工藤 章 他7名	プルトニウム環境汚染調査研究会	1,000
53	在日華僑(華人)の日中文化交流への貢献に関する総合的研究 — 庶民生活文化の伝承と居留国日本への貢献を中心に — (継2)	唐 文基 他8名	華僑と日中文化交流研究会	500 (2年)
54	雲南少数民族の伝統的文化と経済・社会の近代化に関する日中共同研究 — とくに地域モデルの実証的検討 — (継2)	大林 太良 他14名	雲南民族研究会	1,100 (2年)
55	朝鮮総督府調査資料に現われた文化政策の考察 — 文化人類学的観点から — (継2)	崔 吉城 他10名	日本文化研究会	850 (2年)
56	18・9世紀日本の小家族化と子育て意識の変容に関する心性史的研究 — マビキ慣行を手がかりに — (継3)	太田 素子 他8名	子育ての社会史研究会	900 (2年)
57	前近代の日本における職能民の社会と歴史 — 「職人歌合絵巻」「職人尽絵」「洛中洛外図」等の資料学的研究を通じて — (継3)	網野 善彦 他5名	職人歌合研究会	300
58	西太平洋温帯島嶼における海岸植生 — ミズナギドリ系の変遷, 日本・タスマニア・ニュージーランドに関する比較 — 特に人為の影響と関連して — (継2)	丸山 直樹 他14名	ミズナギドリ研究会	1,000 (2年)
59	在日韓国朝鮮人の生活文化の異質化と適応過程に関する保健学的研究 — 死因・疾病類型・保健行動・生活様式の日韓比較を通して — (継2)	金正根 他4名	ソウル大学保健大学院	700 (2年)
60	中国帰国者の適応過程に関するプロスペクティブ・スタディ	江畑 敬介 他20名	中国帰国者適応過程研究会	550
61	アイヌ語を体系的に学習するための日本語-アイヌ語辞典編纂にむけての総合的研究(継2)	萱野 茂 他3名	アイヌ語辞典編纂委員会	350 (2年)
62	日本の政府開発援助(ODA)が東南アジア社会に及ぼす諸影響についての実態調査と代替案(オルタナティブ)の模索(継2)	村井 吉敬 他7名	ODA調査研究会	550

研究助成合計

62 件

20,100



市民活動助成の選考を終えて

市民活動助成選考委員長 縫田 嘩子

●はじめに

本年度の市民活動助成の選考については昨年同様、①「記録の作成」、②「記録の出版」、③「活動交流促進プロジェクト」の3つの分野にわたり行なわれました。「記録の作成」については、“活動の体験を共有の財産に”することをその趣旨に、様々な分野で創造的かつ先見性のある活動を続けてきているグループを対象に、これまでの活動に関する記録の作成に対する助成を、「記録の出版」については、作成された記録を対象にその出版に対する助成を行うものです。また、「活動交流促進プロジェクト」については、市民活動全般につき、個々のグループがより広く活動し易い基盤づくりに役立つことをその趣旨に、活動の幅広い交流や促進を狙いとしたプロジェクトに対する助成を行うものです。

●「記録の作成」について

さて、今回の「記録の作成」に関する

申請につきましては、総数で32件、昨年度の26件に比し微増といったところででした。全体に関わる特徴を概観しますと、1)記録の対象となるグループの所在地では、やや全国的な広がりが鈍った反面、都市への集中が少なくなり地方への分散が増えてきたように思えます。2)活動分野としては、昨年もそうであった様に、福祉関係（障害者、老人、医療・健康）が多かったわけですが、一方、複合的なものや既成の分類では判断が難しい活動を行っているグループも目立ってきており、その点、今後の市民活動の方向性を示唆するものとして注目されるところで。3)活動歴については、昨年度の選後評——比較的短いところが多く、この辺が今回の申請全体の“質”にも影響しているようにも考えられます——の影響もあるのか、5年以上のグループが8割弱を占めていました。④活動内容の点では、今回、本助成の趣旨にややそぐわないもの（例、調査活動の記録等々）が散見されました。恐らく本来の活動は立派に続けられているのでしょうから、今後は応募の内容をよくご理解いただいた上で申請される様申し添えておきます。なお、焦点が定まらず、一体何を記録したいの

かが良く分からない申請も相変わらずですが若干見られました。

選考委員会では、活動内容や活動歴、また、他のグループへ与えるインパクトや記録作成計画の具体性など、様々な観点から、個々の申請につき大変熱心な議論がなされました。そして、多くの委員の評価を得られた下記の5グループが結果として助成対象となったわけです。

今回惜しくも採択とならなかったグループにつきましては、今後、充分な活動体験の蓄積や活動内容の質や広がりを追求された上で、再度申請されますことを希望いたしております。

☆ ☆ ☆

なお、「記録の出版」については7件の申請がありましたが、審査の結果、今回は下記の通り、3件が助成対象となりました（他の3件は継続審議中、1件は却下）。今年度分の申請は年内一杯受け付けておりますので、記録を完成されたグループには積極的に申請され、その記録が少しでも早く出版物として公表されることを期待しております。

また、「活動交流促進プロジェクト」につきましては、2件の申請があり、全て助成の対象となりました。

1989年度 市民活動助成対象一覧

No.	テ ー マ	代 表 者 名	共同者数	代 表 者 所 属	助成金額 (万円)
1	大阪精神薄弱養護学校・造形教育研究会の活動に関する記録の作成	川 井 潤	他10名	大阪精神薄弱養護学校・造形教育研究会	100
2	財団法人・関西盲導犬協会の活動に関する記録の作成	桑 原 秀 雄	他 8 名	(財)関西盲導犬協会	160
3	三多摩問題調査研究会の活動に関する記録の作成	宮 本 加寿子	他10名	三多摩問題調査研究会	170
4	中海・宍道湖の淡水化反対と環境保全を求める市民運動の活動に関する記録の作成	保 母 武 彦	他10名	中海・宍道湖の淡水化に反対する住民連絡会	190
5	全国ボランティア研究集会の活動に関する記録の作成	齋 藤 信 夫	他 8 名	(社)日本青年奉仕協会	200
6	食べものと健康のつどいの活動に関する記録の出版	緒 方 俊一郎	他 9 名	食べものと健康のつどい	100
7	薬を監視する国民運動の会の活動に関する記録の出版	高 橋 暁 正	他 9 名	薬を監視する国民運動の会	100
8	働く母の会の活動に関する記録の出版	広 田 寿 子	他10名	働く母の会	100
9	市民活動に関するミニコミ紙・誌の実態調査とその収集(第2年度)	丸 山 尚	他 9 名	住民図書館	240
10	第1回日本ネットワークワーカーズ会議の開催	矢 野 利 之	他16名	日本ネットワークワーカーズ会議	420
市民活動助成合計		10 件			1,780



1989年度 国際助成対象一覧

ビルマ〔2件; 40,500ドル〕

注：プロジェクト名末尾の継2(3)(4)(5)(7)は、継続2(3)(4)(5)(7)年目を示す。

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
1	モン語及びビルマ語古法典の英訳	ナイ・パン・フラ	ビルマ文化省考古学局	21,000
2	ビルマ王勅令(A.D.1598—1885)の編集と出版—解説及び要約付き (継4)	タン・トウン	マンダレー大学	19,500

カンボジア〔1件; 34,800ドル〕

3	クメール語大辞典再版	サム P.	カンボジア教育省	34,800
---	------------	-------	----------	--------

中国〔1件; 7,000ドル〕

4	第4回タイ研究国際会議	チェン L.	雲南省東南アジア研究所	7,000
---	-------------	--------	-------------	-------

インドネシア〔18件; 168,300ドル〕

5	スラカルタ地域のフォルステンランズ・タバコ栽培とブスキ地域のブスキ・タバコ栽培：その地域農業経済と地域社会への影響、1860年—1960年(継2)	スギヤント P.	ガジャマダ大学歴史学科	8,800
6	スラウェシ南部の沿岸地域の社会(継4)	ムフリス	ハサヌティン大学沿岸地域研究プロジェクト	10,000
7	スルック：ジャワのイスラム教徒の神秘詩(継3)	シムフ	スナンカリジャガ・イスラム高等学院	6,000
8	ワリソゴ、ジャワ島最古の歴史文献に描かれたジャワのイスラム教の祖たち(継2)	ワシット	ワリソゴ・イスラム高等学院 研究センター	7,400
9	アチェの慣習法の編纂(継2)	ダルウィス A. S.	アチェ慣習法・文化研究所	16,400
10	地域の復権と発展における文官エリートと軍人エリートの統合の役割——西スマトラのケース、1966年—1987年(継2)	サアフルディン B.	国立防衛大学	2,700
11	インドネシアの諸民族言語との関連におけるインドネシア語の利用と発達(継3)	E.K.M. マシナンボウ	インドネシア大学 文学部 言語学科	18,900
12	リアウ地方の口承文学：内陸部住民のニャニイバンジャン(継3)	トウナス E.	リアウ州立伝統文化会館	7,800
13	動機づけと開発：中部マルク東セラム沿岸社会についての研究(継2)	アブドゥール R. H.	パティムラ大学	3,500
14	バリの貝葉文献ロシタルのカタログ化	I.G.N.R. ミルジャ	バリ州立バリ文化記録センター	6,700
15	『チョンボク戦争物語』：アチェ史の史料およびアチェ文学の資料としての役割	M. イサ S.	シャクアラ大学 教育学部	4,400
16	南スラウェシ、プルクンバ県プルクンバ郡タネテ村におけるシノマン(相互扶助・近隣)集団の研究	H. ジャアリ	ウジュンパンダン教育大学 教育学部	7,500
17	オランダ植民地時代のジャワ社会生活様式：19世紀—20世紀半ばの家屋芸術のカタログ化	ジョコ S.	ガジャマダ大学 文学部	3,400
18	『聖戦物語』：アチェ戦争(1873年—1912年)における創作と社会の受けとめ方	イムラン・T. A.	ガジャマダ大学 文学部	3,400
19	言語変化：ランブんに移住したバリ人のケース	I.G.M. スチャジャ	ウダヤナ大学 文学部	5,000



No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
20	ムシャワラトウタリピン：南カリマンタンにおける国民蜂起運動時代の地域最大の地方組織	M. ヌール M.	アンタサリ国立イスラム高等学院 研究所	4,200
21	シェク・ムハマド・アルシャド・アルバンジャリの著書『サビラル・ムフタルディン』の翻字	アナリアンシャ	アンタサリ国立イスラム高等学院 研究所	5,000
22	中部ジャワのタレカッタ（イスラム神秘主義）信仰集団の宗教生活——宗教研究訓練プログラム	バルスディ S.	インドネシア大学文化人類学科	47,200

ラオス〔8件；63,500ドル〕

23	標準ラオ語辞書の編纂（継2）	トンカム O.	社会科学研究所	2,900
24	貝葉文献のインヴェントリー作成（継2）	カンラニャ D.	文化省ヴァナシン雑誌	29,700
25	民俗詩収集と出版（継2）	ボセンカム V.	社会科学研究所	6,200
26	ラオス美術史の研究	ボウヘン B.	博物館考古学局	6,600
27	タン・フン叙事詩に描かれた伝統と儀礼についての研究	ドウアンドウエン V.	文化省ヴァナシン雑誌	2,400
28	シンサイ民話の古典詩から現代散文型への翻訳および研究	ウティン B.	文化省ヴァナシン雑誌	3,000
29	カンボジア語—ラオ語辞書の編纂	マハ・カムバン V.	国立社会科学院	6,700
30	サバンナケート州の諸民族の音楽、舞踊、歌謡に関する研究	ソボクランシー T.	サバンナケート州文化部	6,000

マレーシア〔5件；46,800ドル〕

31	サバ・サラワクの輸送についての歴史研究：1800年—1940年（継2）	A. カウル	マラヤ大学文学部歴史学科	14,700
32	『社会科学ジャーナル』の発行（継7）	S. フシン A.	マレーシア社会科学会	10,300
33	東南アジアのアラブ人：歴史・社会学的研究（継3）	オマール F.	マラヤ大学文学部歴史学科	9,200
34	陸軍元師ピブソクラームの生涯と時代 — 最も長く務めたタイの首相	コブクワ S. P.	マレーシア国立大学歴史学科	8,300
35	マレーシア史のモノグラフ：1900年—1941年	クー K. K.	マラヤ大学文学部歴史学科	4,300

ネパール〔2件；52,700ドル〕

36	古典ネパール語辞書編纂（継5）	P. B. カンサカール	ネパール語辞書委員会	17,900
37	ネパール文化百科事典（継4）	K. K. B. シャー	トリヴァン大学ネパール・アジア研究センター	34,800

フィリピン〔16件；196,900ドル〕

38	サンボアングのチャバカノ語による民俗文学（継2）	O. B. クアルトクルス	西ミンダナオ州立大学研究センター	7,200
39	イロンゴ文学とその背景（継2）	L. V. オシリョス	文化コンサルタント	9,800
40	ブキドノン：1946年—1985年（継2）	M. M. ラオ	セントラル・ミンダナオ大学	5,600



No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
41	ネグロス・オキシデンタル州の社会・文化・経済史：1850年—1985年(継5)	V.L. ゴンザガ	セント・ラ・サル大学社会調査センター	3,900
42	マノボ族の叙事詩『ウラヒーガン』の記録, 翻訳, 編集, 出版(継3)	E.G. マキノ	シリマン大学研究センター	24,300
43	バナハウ山の神話と儀礼：宗教伝説の構造と役割を世界観の指標としてとらえる研究(継2)	G. M. ベシガン	アテネオ・デ・マニラ大学英語学部	5,700
44	アメリカ支配から現在に至るまでのネグロス・オリエンタル州の歴史(継4)	C. A. ロドリゲス	シリマン大学歴史・政治学科	2,000
45	フィリピンのイスラム芸術と建築：土着と現代(継3)	A.T. ティアムソン	フィリピン大学マニラ分校教養学部社会科学科	23,500
46	フィリピンの地方史に関するスペイン語古文書の調査(継3)	M. B. D. アランバイ	デ・ラ・サル大学歴史学部	11,600
47	ミンダナオ島のモスレムの法的権利の認知と振興：国家統一と開発の前提条件として(継2)	Z. S. レイエス	フィリピン大学法律生涯教育学科	8,100
48	フィリピン諸語辞書(継4)	E. コンスタンティーノ	フィリピン大学社会科学・哲学学部言語学科	23,400
49	スバネン族の民俗伝承：文化変容の研究	J. V. エンリケス	セイウィヤー大学古文書館	9,000
50	スペイン植民地時代に関する未出版の古文書の調査, 翻字, 翻訳, 出版	V. B. リキュアナン	フィリピン歴史文化保存ナショナル・トラスト	25,400
51	ネグロス・オリエンタル州の人口歴史学：スペイン時代から現代にいたるまでの人口増加のプロセスの研究	R. V. カデリーニャ	シリマン大学研究センター	6,800
52	マラナオ族の慣習と信仰	E. R. ディソマ	ミンダナオ州立大学社会学科	5,800
53	フィリピンの各言語による文学のピリピノ語への翻訳・出版	E. M. パチェコ	アテネオ・デ・マニラ大学出版会	24,800
タイ [8件; 84,500ドル]				
54	中国・広西のチュアン族とタイの関係についての研究(継3)	ブラニー K.	チュラロンコン大学文学部言語学科	8,800
55	タイのヤオ族と中国・広西のヤオ族の比較研究(継3)	テラバン L. T.	チュラロンコン大学文学部言語研究所	9,600
56	貝葉文献に基づく北タイ古語辞書編纂出版(継4)	アルンラット W.	チェンマイ教育大学歴史学科	3,700
57	ランナタイおよびシブソンパンナの歴史資料の編纂：1200年—1949年(継2)	M. R. ルチャヤ A.	チェンマイ大学芸術文化センター	26,400
58	ランナにおけるビルマ的建築	サゴブ C.	チェンマイ教育大学芸術学科	8,900
59	タイの古代織物の研究	チラボン A.	国立博物館保存部	10,900
60	ランナの12ヶ月の伝統儀礼：民族・歴史的比較研究	ソンマイ P.	チェンマイ大学社会・人類学部	5,500
61	固有の知識体系の活力と再生への展望	チャンタナ P.	チュラロンコン大学社会研究所	10,700
ヴェトナム [11件; 104,600ドル]				
62	ヴェトナム百科事典(継2)	P. N. クウォン	ヴェトナム社会科学委員会	17,700
63	ヴェトナムの漢字およびノム文字による碑文研究(継2)	N. Q. ホン	漢字・ノム文字研究所	9,200



No.	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
64	ヴェトナムのタイヌン少数民族(継2)	B. V. ダン	民族学研究所	8,300
65	チャムの歴史と文化(継2)	N. C. ビン	ホーチミン市社会科学研究所	8,900
66	紅河デルタの人々とその文化的特徴(継2)	V. T. ラップ	社会・経済・地理研究センター	7,600
67	19世紀以降の北ヴェトナム・デルタにおける農業生産組織の伝統的 要因が現代に及ぼす影響	C. V. ラム	経済研究所	8,100
68	北ヴェトナムのヴェト族の伝統的祭り	N. D. ティン	民俗学研究所	10,500
69	ヴェトナム語の中の中国語を語源とする四千の要素	H. V. ハン	言語学研究所	9,100
70	ヴェトナムのフオン・ウオック(村の法則)についての文書の保存 と記録	N. D. トン	社会科学情報研究所	10,500
71	南ヴェトナムのヴェト族の民族文化	N. Q. ウィン	ホーチミン市社会科学研究所	10,000
72	東洋文明とヴェトナムの伝統的家族	N. P. トウオン	社会学研究所	4,700

国際助成小計

72件

799,600

73
↓
96

インドネシア若手研究者奨励研究助成(対象一覧は省略)

24件

45,600

国際助成合計

96件

845,200

1989年度『隣人をよく知ろう』プログラム助成対象一覧

「翻訳出版促進助成」・日本向け〔6件; 1,125万円〕

No.	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額 (万円)
1	サルボダヤ——自立のための民衆運動——(スリランカ)	山下邦明, 林千根 長井治	はる書房	148
2	そして戦争は終わった(インドネシア)	高殿良博	井村文化事業社	137
3	明日はそんなに暗くない(スリランカ)	バドゥマ・ラタヤーナカ 中村禮子	南雲堂	150
4	寒い夜空(タイ)	佐藤由利江	曹洞宗ボランティア会	216
5	祖国の子(インドネシア)	舟知恵	踏書社	235
6	ホン・ダット(ヴェトナム)	富田健次	穂高書店	239



「翻訳出版促進助成」・東南アジア向け〔4件; 177,300ドル〕

No.	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
1	日本の民話のラオ語への翻訳と出版(継2)	フンパン R.	芸術・文学研究所	7,900
2	日本の産業、経済、経営に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版(継5)	V. D. ルオック	世界経済研究所	29,000
3	日本の伝説、民話、文化史、社会科学の本のヴェトナム語への翻訳と出版(継3)	N. D. ティウ	社会科学出版局	31,500
4	フィリピン向け『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト(継2)	F. S. ホセ	ソリダリティ財団	108,900

「翻訳出版促進助成」・東南アジア相互間〔6件; 140,800ドル〕

1	アジア各国におけるプラーヤ・アヌマーン・ラーチャトンに関する展示会とタイでの国際シンポジウム(継2)	スラック S.	サティアンコーセツト・ナーガプラティープ財団(タイ)	31,400
2	東南アジア相互間『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト(インドネシア)(継3)	アスワブ M.	社会経済調査・教育・情報研究所(インドネシア)	28,300
3	東南アジアの社会・経済発展に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版(継2)	N. M. ハン	アジア太平洋研究所(ヴェトナム)	27,000
4	東南アジアの歴史、文学、伝統に関する本のヴェトナム語への翻訳と出版(継2)	P. D. ズオン	東南アジア研究所(ヴェトナム)	14,500
5	『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト(ネパール)	B. L. ブラダグ	CWASAPASA 翻訳委員会(ネパール)	15,400
6	東南アジア相互間『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト(マレーシア)	アブ・バカール H.	学術振興財団(マレーシア)	24,200

東南アジア研究 英訳刊行助成

1	東南アジア研究英訳刊行(継3)	G. M. ケーヒン	コーネル大学東南アジアプログラム	96,400
---	-----------------	------------	------------------	--------

新刊紹介

シャブラニールの熱い風
シャブラニール活動記録編集部・編
榎めこん・刊('89.9)
A 5判 372頁, 2,400円(税込)

「シャブラニール—市民による海外協力の会」は、17年前より市民の自発的な参加と責任にもとづき、バングラディッシュを主体とした「南」の国々の人々(民衆)の生活向上のため、様々な協力活動を続けている。本書は、その前身・HBC(ヘルプ・バングラディッシュ・コミティ)の1972年発足時から1983年までの10年間の活動記録の前半部分にあたる。

「ノートとえんぴつ募金」から始まり、その後現地に拠点を開設し活動が大きく展開していったものの、やがて国内と現

地側との間にある種の亀裂が生じる。そして大きな転換を迎えることになった。4・17事件の発生、等々。実に波乱と激動に満ちた時代であったことが伺える。

ODA(政府開発援助)のあり方を巡り様々な議論がかまびすしい現在、本物のNGO(民間海外協力団体)の一つとして先駆的な活動を続けてきた同会のこの記録は、同様なNGO関係者のみならず、政府機関関係者にもぜひ一読を薦めたい。

なお、本記録の作成と出版は、当財団の市民活動助成による。(G.W.)

一年間ボランティア計画

(社)日本青年奉仕協会・編
松籟社・刊('89.10)

A 5判 240頁, 1,800円(税込)

1967年に設立された同協会は、ボランティアをこころざす若者に対する支援はもとより、国内外のボランティア・コーディネーターとして、その分野における活動の振興に長年貢献してきている。

本書は、その事業の一つである「一年間ボランティア計画」に関する10年間の記録を当財団の市民活動助成により総合的にとりまとめたもの。一見気楽にみえる現在の若者達。だが、学校教育や情報化の進行等、彼等を取り巻く環境にはきわめて問題が多い。意識ある若者は、この様な状況を身体で感じ、そこから脱皮しようとする。その受皿の一つが同計画と言えよう。第I章のルポルタージュや第II章の体験レポートからは、計画に参加した若者達の意識の変化とその後の成



長ぶりが実感される。“もう一つの青春の過ごし方”を教えてくれる好著として一読を薦めたい。(G.W.)

*Agricultural Development in Japan
—The Land Improvement District
in Concept and Practice—*

Gil Latz・著
1989, The University of Chicago・刊
(Geography Research Paper No.225)
A 5 変形判 140頁 英文

戦後日本の土地改良政策について具体的に論じたもの。農業基盤整備の組織や実態の現状分析、とりわけ埼玉県の見沼代用水系の土地改良事業についての詳細な事例検討が中心であるが、前半でまず日本の農政用語について厳密な定義と解説を行い、農業をとりまく社会的・経済的背景についても概観している。

著者は9年前に当財団の研究助成を受けて全国各地の土地改良区を訪ね、図版入りの用語解説書を英文で出版するとともに博士論文をまとめたが、それらの成果をまとめて出版したものが本書。

前号(No.48)で紹介した『須恵村1935～1985』が現象面での戦後の農村の変化を理解する好著であるのに対し、本書はその政策的背景の国際理解に寄与する貴重な文献と言えよう。両書を通して、戦後日本の農村変化の実状が世界の人々に理解されることを期待したい。(Y.Y.)

Information

第1回日本ネットワークーズ会議開催

—11月中旬に東京と大阪にて—

“ネットワークングが開く新しい社会”をテーマに、今後の市民活動と社会のあり方などを海外の講師も交え論じようとする標記の会議(前No.49号にて紹介)については、下記の通り実施予定。

[東京会議]於・家の光ビル(飯田橋)

11月12日(日) 10:00～17:00

[大阪会議]於・大阪YMCA会館(土佐堀)

11月18日(土) 10:00～17:00

●申込等の詳細については、会議事務局(☎・03-460-0217・矢野)まで。

最近の報告書から

当財団の研究助成から「成果発表助成」によって印刷された報告書を紹介します。入手ご希望の方は、送料分の切手を同封の上、財団レポート係宛てお申し込みを。(品切れの際はご容赦ください)

II-023 脳卒中、心筋梗塞の発症を予防するために望ましい生活パターンの研究(大阪府立成人病センター 飯田 稔 B 5判 38頁, 送料 210円)

著者たちは漁村住民を対象とした1982年度の予備研究助成で、40歳代を中心に従来とは異なる新しいタイプの高血圧の影響が出現しつつあることを指摘したが、翌年度から2年にわたる総合研究では、その実態を大都市の企業勤務者と住民、農村住民の20年来の変化の分析によって詳細に検討し、脳卒中や心筋梗塞を予防するための食生活のありかたについて考察した。本書はその基礎データと要旨をまとめたもので、記述疫学的手法を重視した報告となっている。

011 韓国及び在日韓国人の疾病類型と死因の変遷様相に関する研究(ソウル大学保健大学院 金正根, B 5判 72頁, 送料 210円)

韓国に住む韓国人と日本に住む韓国人では、同じ民族でありながら地理的・文化的に異なる環境で生活しており、その疾病類型や死因を比較することによって生活環境が健康に及ぼす影響を分析することができる。このような考えから、筆者等は1986年度の予備研究において、両人口集団を対象に人口動態統計や死亡小票等の既存データを再集計し、また新たに面接調査を実施することによって基礎的な情報を収集した。その成果をまとめたのが本書である。

013 中国近代建築総覧 天津篇(和文・中文・英文)

(中国近代建築史研究会 代表・汪坦+日本アジア近代建築史研究会 代表・藤森照信, A 4判 194頁, 送料 310円)

中国での近代洋風建築の実地調査が、日中の協力によって中国の主要都市で進められつつあるが、本書はそのスタートにあたって1987年度の予備研究で行ったモデル調査の成果をまとめたものである。天津市の都市と建築に関する7本の論文が中文と和文で掲載されている他、現地調査に基づく主要建築のリストとその個別調査票(写真を含む)が収録されており、今後各都市で行われる調査のマニュアルとしても利用できる。

経過報告会のお知らせ

- ・11月17日(金) 1988年度研究助成 総合(第Ⅲ種)研究
- ・11月30日(木) 第5回研究コンクール・本研究

◎場所は、いずれも東京・六本木の国際文化会館。お問合せは財団まで。

編集後記

▶本レポートも今号で50号を迎えるに至りました。当初から、編集はもとより、デザイン・レイアウト・字体の指定等まで全てを手作りで作成してきました。

▶手作りのため、誤字・脱字・表現のまずさなど、お見苦しい点多々あったであろうと推察し、ここに改めてお詫び申し上げます。

▶あるミニコミの専門家が言っていたことに、「(ミニコミを発行している)組織の力量を計る尺度として、その発行が50回継続しているかどうか一つの目安になる」ということです。

▶その意味では、当財団もようやく一人前になったわけで、これも皆様方のご協言・ご協力の賜と感謝いたしております。今後ともよろしく願いいたします。

トヨタ財団レポート No.50

このレポートを継続してご希望の方は、お葉書にてお申込みください。

発行日 1989年10月20日
発行所 財団法人 トヨタ財団
発行人 山口日出夫
編集者 渡辺 元
印刷 真友工芸株式会社